

## 「日本女性会議 2015 倉敷が盛大に開催されました！」

今年 32 回目を迎える日本女性会議が、倉敷で開催されました。テーマは「思いやり 男女（ひと）が集う 白壁のまち～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～」でした。岡山県内では 2 度目の開催であり、岡山市で 1997 年（18 年前）に開催され、これを契機に地方で女性議員が増えたことを思い出します。

上岡美保子実行委員長のあいさつでは「互いの意見をぶつけ合いながら熟考を重ねて本番を迎えた」経過が報告されました。「おもてなし委員会」が設けられ、参加者への気配りが感じられる大会でした。

第 1 日目の冒頭で、内閣府男女共同参画局の池永審議官が、わが国の現状、なぜ女性の活躍が重要か、政府の取り組みと成果について報告。ジェンダーギャップ指数（2014 年）で、日本は 142 か国中 104 位、先進国では最低水準で、1995 年以降相対的順位が下がっていることを指摘。原因は、企業の女性管理職や女性政治家の割合が低いことも要因となっていることを改めて示し、日本の現状を示す数字やデータが明らかにされました。

基調報告を受けて、参加者は、大いに語り合い、「わたしたちが行動を起こし、日本を変えていく」との大会宣言を採択しました。今回の女性会議の様子を参加者から報告します。

（文責 崎本とし子）

### 記念講演

#### ① 「魂の言葉を伝える～テレビの裏側・放送の現場から～」 武内陶子

NHK 現役アナウンサーの武内陶子さんによる軽快で楽しいお話でした。武内さんは倉敷市玉島生まれで、3 人の娘さんを育てながらアナウンサーとして第一線で活躍されていることに多くの方が共感し、勇気をいただいたのではないのでしょうか。

2003 年に「第 54 回 NHK 紅白歌合戦」で総合司会を担当したエピソードでは、あまりの大役に悩んでいた時、育った愛媛の道後温泉で見知らぬ女性に背中を大きく押されたことを紹介し、自分は一人じゃないし多くの人に支えられているとも気づかされた、壁を乗り越えたことが次につながると訴えられました。

#### ② 「パツとしない私が、『これじゃ終われない』と思ったときのこと」 上田紀行

武内さんの夫で文化人類学者。物理的に豊かな日本では生きる意味が貧しいと訴えられます。高校生へのアンケート比較で、日本は米韓中に比べ自分には価値がないと思う指数が飛びぬけて高い。日本が置かれてきた男性社会はともすれば一元的で結論ありきの成果主義。一方女性は、当事者意識が強く、いのちや他人の苦しみに敏感であることが米国の実験でも示されている。これからの社会では、目に見える成果にこだわるより「よりそい」や「きずな」を大切にすることが求められているのではないか。これまでの男性社会を女性化していくことこそが必要だとのこと。母子家庭で育ったご自身のエピソードを交えながら、母に、妻に感謝する姿に涙を誘われました。（文責 田中のぞみ）